

# 三浦裕正病院長インタビュー

## ～今年度の病院運営について～

### ■ 昨年度の総括と今年度の目標は？

病院経営は毎年堅調に推移しています。昨年度からは医療安全管理部門に専従の看護師GRM、薬剤師GRMに加え、専任の医師GRM 2人を配置し、医療安全管理体制の充実を図っています。また、第1種感染症病床の設置やドクターヘリの導入などもあり、患者さんにとっては一層身近に高度な医療が受けられるようになりました。今年度も安定した病院経営を最優先課題として実施していきます。来年度には、診療報酬と介護報酬のダブル改定が実施される予定ですし、現在進められている地域医療構想に対応するためにも、当院が担う高度急性期医療についての戦略的プランを策定します。

### ■ 4月からの病院体制は？

円滑な病院運営のために、当院では6人の副病院長に業務を分担してもらっています。総務・診療担当は放射線科の望月輝一副病院長、病院経営担当は引き続き消化器腫瘍外科の渡部祐司副病院長にお願いしています。医療安全に関しては特定機能病院の承認要件見直しに伴い、医療安全管理責任者として相引眞幸副病院長を据え、大幅な管理体制の見直しを継続して実施します。基礎医学分野の今村健志副病院長には橋渡し研究推進を、第三内科の日浅陽一副病院長には地域連携・地域医療再生を担当していただき、お二人には「とうおん健康医療創生事業」においても陣頭指揮をお願いしています。

また、患者サービス担当として、新たに久保幸副病院長（看護部長）に加わっていただきました。病院での診療をよりよいものにするためには、看護師の協力が欠かせません。久保副病院長は、看護部トップとしての資質に優れ、人望も厚く、看護スタッフのまとめ役として多いに期待しています。

### ■ 重点的に進めるべき点は？

全国的に国立大学法人への運営費交付金は年々減少しており、愛媛大学においてもポイント制導入による人件費削減が喫緊の課題となっています。しかし医学部の教員不足は、将来の愛媛の医療に深刻な事態を招きかねないので、病院としてもできる限りの支援を実施していきたいと考えています。

また、特定の診療科においては、超過勤務が深刻な事態となっています。現在、事務職員で構成する病院経営企画プロジェクトチームと、現場の多職種のスタッフで構成する経営改善タスクフォースの二つが協力して、様々な企画を立案しています。両チームとも若手職員が中心であり、斬新なアイデアがたくさん生まれています。職員全員が安心して働き、患者さんが安心して治療を受けられるよう、当院では全職員参加型の医療と病院経営を行っていきます。



インタビューに答える三浦病院長